平成２４年度　ＮＰＯと企業の協働事業

１ 障がい者の能力を活かしたエコ封筒の商品化

団体名	特定非営利活動法人 福岡ジョブサポート（福岡市）
企業名	株式会社 eco-be（卸売・小売業/福岡市）

【概　要】

特定非営利活動法人 福岡ジョブサポートが株式会社 eco-be と協力し、日本初の繰り返し使える「エコ封筒」の商品化に貢献。

福岡ジョブサポートは、障害者の特性を見極め、その個性に応じて就労を支援するノウハウを持ち、昨秋の県主催の協働面談会の場で、梱包・封入などの作業に障害者の能力が活かせることを企業にＰＲした。これに自社製品「エコ封筒」製作の機械化できない工程を改善したい株式会社 eco-be が賛同したもの。

今では、封筒に特殊なシールを貼り付ける手作業でしか行えない工程を福岡ジョブサポートで働く障害者が担っている。１回きりの使い捨てだった封筒をリユースしてコストとゴミの削減を図る「エコ封筒」は、日本初の繰り返し使える封筒として特許を出願し、受注生産も開始しており、障害者の工賃アップにもつながっている。

新発想のエコ封筒「バトンメール」当社だけのオリジナル商品
（㈱eco-be　ホームページより）

２ 企業社員の貢献による黒木町・笠原地区の農地災害復旧

団体名	山村塾（八女市）
企業名	有限責任監査法人トーマツ（会計監査・コンサルティング/福岡市中央区）

【概　要】

有限責任監査法人トーマツが、山村塾と協働して平成２４年７月の九州北部豪雨により被災した八女市黒木町・笠原地区で茶畑などの復旧に協力。

山村塾が事務所を置く笠原地区は山間地域にあり、農家に高齢者が多く、棚田の石積みや家屋から掻き出されたままの土砂の撤去など、力仕事が必要で人手不足の問題が発生していた。

交通が不便で人的な支援の手が届きにくいことにいち早く気づいた山村塾は、被災から約１週間後に、都市部から効率的にボランティアを募り、必要な場所への支援に振り向ける「笠原復興プロジェクト」を企画。

新たなＣＳＲの取り組みを探していた有限責任監査法人トーマツは昨年９月、パートナーを求めて協働面談会に参加してこの取組を知り、プロジェクトに賛同した。

福岡県内の同社社員約３００名を対象にボランティアを募り、１１月２３日に第一弾として１１名が災害復旧に取り組んだ。

トーマツは、「農家の方々から感謝の言葉をいただき充実感を得た」、「同僚の職場では見られない一面が見られて親密になれた」などの声が参加者から得られ、社員の意識を高めることができたと語る。今後も、同社は山村塾と協働で災害復旧に取り組む予定。

災害復旧作業の様子

左：畑の復旧作業

右：家屋内の復旧作業

３ 建機提供による黒木町・笠原地区の農地災害復旧

団体名	山村塾（八女市）
企業名	油機エンジニアリング株式会社（建設機械レンタル/太宰府市）

【概　要】
山村塾は、九州北部豪雨により被災した八女市黒木町・笠原地区の復旧に使用するため、油機エンジニアリング株式会社から小型バックホウ（建機）の無償提供を受けた。
山村塾が事務所を置く笠原地区は山間地域にあり、山崩れにより棚田や茶畑などにも大量の土石が流入。山間地域には大型の重機が入りにくく、手作業による修復も困難であった。
油機エンジニアリングは協働面談会に参加して山村塾の「笠原復興プロジェクト」を知り取り組みに賛同。
重機レンタルの本業を生かし、レンタルできなくなったが十分使用可能な小型バックホウを山村塾に無償提供し、災害復旧を効率的に実施することができている。
農家からは「生活の糧である田んぼや畑が復旧する目途が立った」と喜びの声が寄せられており、今後も小型バックホウは棚田や茶畑の復旧に活躍が期待されている。

提供されたバックホウ(建機)とその作業

４ 九州北部豪雨の被災地支援企画商品「愛しき大地」の製造販売

団体名	特定非営利活動法人 フィールドワークスジャパン民族芸能伝承学舎（東京都）
企業名	株式会社高橋商店（八女市：酒造） サトウ酒店（八女市：酒屋） 小さな和紙工房まつお（大野城市：和紙職人） ＫＡＧＵＬＡ（大宰府市：書道家）

【概　要】

民謡歌手の伊藤多喜雄氏が代表を務めるフィールドワークスジャパン民族芸能伝承学舎が、八女市の酒造会社高橋商店と協働し、九州北部豪雨災害からの復興を支援するオリジナル日本酒「愛しき大地」を製造販売。

伊藤多喜雄氏は、東日本大震災の復興を支援するため、八女市で昨年９月に実施するチャリティーイベントを企画したが、九州北部豪雨災害を受けた八女市の惨状を見て、７月下旬に九州北部支援に切り替え、知人で同市出身の手すき和紙職人松尾氏（小さな和紙工房まつお）と日本酒を使った災害復興プロジェクトを企画。

松尾氏が昨年８月、県主催のイキカツ交流会の場においてプロジェクトを提案し、高橋商店、サトウ商店及びＫＡＧＵＬＡが賛同した。

酒造会社高橋商店は自社が酒造会社であることを生かして災害復興用の日本酒を製造し、小さな和紙工房まつおやＫＡＧＵＬＡは、それぞれ手すき和紙や筆文字の技術を生かしてワークショップを開催し、八女市伝統工芸「手すき和紙」を使用した百人百様のラベルを作った。ワークショップの参加費の一部も支援金にあてられた。

全て異なるラベルが貼付されたオリジナル日本酒「愛しき大地」は 120 セット生産、12 月に完売して益金を 1 月に八女市に寄贈した。松尾氏によると、「いろいろな方が加わり、支援の輪が広がっている。」とのこと。現在、オリジナル日本酒「愛しき大地」は商標登録しており、第二弾を検討している。

義援金贈呈

ひとつひとつワークショップで
手書きされたラベルの「愛しき大地」

５ 障害者の能力を活かしたオリジナル健康商品「あんまのまんま」の共同開発

団体名	ＮＰＯ法人 ワーク in ならや　わくワーク館（福岡市）
企業名	株式会社リーンシステム（ＩＴ関連/福岡市）

【概　要】

ＮＰＯ法人わくワーク館が株式会社リーンシステムの企画提案に応え、肩こりの解消を目的としたオリジナル商品「あんまのまんま(肩こり用手袋)」を共同開発。製作工程の一部をわくワーク館で働く障害者が担っている。

木工玩具製造などで障害者の就労支援をしているわくワーク館は、福岡県美術協会会員の指導のもと、発注者のコンセプトを形に表す造形力に優れ、少量かつ多様なニーズへの対応で顧客の信頼を得てきた。

ＩＴシステム開発の株式会社リーンシステムは、多くのＩＴ従事者が抱える肩こり問題を手軽に解消するためオリジナル商品を製作してネット販売するプロジェクトを考案、昨年８月、県主催のイキカツ交流会の場において協力者を求めた。

プロジェクトに賛同したわくワーク館が「ものづくり」の技術を生かして、手袋に木片をつけた健康グッズ「あんまのまんま」を５セット試作。現在、木片の縫い付け方や大きさなどプロのあんま師などによる製品評価が行われており、３月に完成品１００セットのネット販売が計画されている。

「わくワーク館」は、玩具から健康商品へと新しく商品ジャンルや販路が広がり、障害者のやる気や賃金のアップにつながると期待しており、リーンシステムでも、低価格高品質でありながら柔軟迅速な対応ができる同団体に信頼を寄せている。

「あんまのまんま」のプレゼンの様子
（協働面談会）

６ 社会人基礎力向上と金銭啓発のセミナー共同開催

団体名	特定非営利活動法人 人財共育センターＥＮ（福岡市）
企業名	ＳＭＢＣコンシューマーファイナンス株式会社（プロミス）（福岡市）

【概　要】

特定非営利活動法人 人財共育センターＥＮが、ＳＭＢＣコンシューマーファイナンス株式会社（プロミス）と協働し、入社３年以内の離職を防ぎ、大学生・高校生の就職不安を緩和する「わくわく共感交流会」を開催する。

人財共育センターＥＮは、これまで計 2,000 名を超える参加型セミナー（高校生進路ガイダンス等）を開催しており、そのネットワークを生かして新社会人と社会人候補生の交流により職業観の共有を図るイベントを企画、共催パートナーを求めていた。

これまでもＮＰＯとの協働に意欲的に取り組んできたプロミスは、昨年９月、新たな協働パートナーを求めて協働面談会に参加してこの取組を知り、プロジェクトに賛同。

プロミスとしても新社会人や学生に対して金銭管理の啓発の必要性があると考えていたため、同社の「金銭啓発セミナー」とＥＮの交流会を併催することを合意した。

自社が社会貢献の拠点として全国２１箇所に展開している「お客様サービスプラザ」内のイベントスペース（福岡市中央区天神）を提供し、「就活が不安」「自分のやりたいことがわからない…」「社会で生きていく本質的な力をしっかりつけたい！」という要望の学生の声にこたえる「大学生の就活応援セミナー」を３回シリーズで、第１回目 2 月 18 日「コミュニケーション実践編」、第２回目 2 月 25 日「自分軸づくり実践編」、第３回目：3 月 4 日「アクション実践編」を開催した。参加した学生に聞いたところ自分を見つめて将来に対し、考え始めるきっかけとしてはとても良かったということで上々の評判だった。

講座会場と実施の様子

７ 障害者によるオーダーメード商品の製作

団体名	ＮＰＯ法人 ワーク in ならや　わくワーク館（福岡市）
企業名	株式会社黒乃屋（福岡市）

【概　要】

ＮＰＯ法人　ワーク in ならや わくワーク館が、健康食品を販売している株式会社黒乃屋と協働し、同社の商品陳列・展示用ディスプレイ（台座の木枠部分）の製作に向けた協議を行い、製品化を決定した。

わくワーク館では、福岡県美術協会会員の指導のもと、材料となる楠木などをおもちゃに加工して販売し、「ものづくり」を通じて障害者の就労を支援してきた。

ディスプレイのオーダーメイド・小ロットに対応できる事業者探しに苦慮していた株式会社黒乃屋は、障害者支援にも役立つ取り組みに共感し、ディスプレイの試作をわくワーク館に依頼した。わくワーク館は造形技術を生かして、黒乃屋に２種類の試作品を提出。低価格で高品質な製品に高評価が得られている。

黒乃屋は温泉施設に販路を広げるよう商談中であり、また現在は健康茶のディスプレイの需要が見込まれる。同社からわくワーク館への本格発注、２～３セットをあらかじめ注文しわくワーク館に組み立て前の状態で保管、注文が入り次第すぐに組み立てて発送することで合意した。注文が増えることで、障害者の就労工賃アップが見込まれる。

製作風景

８ 社内の不用品回収ポスト設置によるカンボジア地雷撤去支援

団体名	一般財団法人 カンボジア地雷撤去キャンペーン
企業名	全教研

【概　要】

一般財団法人カンボジア地雷撤去キャンペーンが、全教研と協力し、不用品回収ポストを設置し、書き損じたはがきやゲームソフト、ＣＤやＤＶＤなどの不用品を換金して、カンボジアで地雷撤去作業を続ける女性デイマイナー（地雷撤去隊員）の支援を実施している。

カンボジア地雷撤去キャンペーンは、国内での学校や企業への講演、募金活動を通じて、カンボジアの地雷撤去作業と地雷被害者の支援するプロジェクト実施しており、不用品回収などへの協力パートナーを募集していた。

国際化や高度情報化する社会に対応する子どもたちを育てている全教研がこれに共感し、不用品回収ポストを県内にある７５箇所の教室に設置し、古切手や書き損じたはがきなどを回収しているほか、塾の授業にカンボジアの生の現状を説明する機会を採り入れ、子どもたちに国際社会の現状を理解し、世界を知る取組を進めている。

【回収実績】

●書き損じはがき：4066 枚

●切手：50799 円

●CD：393 枚

●テレカ：19 枚

左：教室に設置された回収ポスト

右：現地カンボジア の様子

９ ごみの堆肥化による循環型社会への貢献と障害者就労機会の創造

団体名	特定非営利活動法人 よか隊（宇美町）
企業名	株式会社西原商店（産業廃棄物処理業/糟屋郡粕屋町）

【概　要】

特定非営利活動法人 よか隊が株式会社西原商店と協働し、企業から出る生ゴミを堆肥化、障害者が就労する自家農園において堆肥で野菜を栽培し、収穫した無農薬野菜をレストランで提供する循環モデルを検討している。

よか隊は、堆肥製造機により生ゴミを堆肥化するノウハウを持ち、障害者の就労の場である自家農園とレストラン「のあ」（宇美町）を運営。これらの経営資源をより活用して、障害者の収入向上及び安全安心な食材を多くの市民に提供するため、堆肥の原料となる良質な生ごみを定期的に一定量提供できるパートナーを探していた。

株式会社西原商店は、大型ショッピングモールから日量 1000ｔの生ごみ処理を請け負っており、３Ｒ（減量、再利用、再資源化）の推進に努めていたところ、昨年９月、県主催の協働面談会に参加して、よか隊の取組みに賛同。両社で業務提携に向けた協議を進めた。

よか隊は、業として廃棄物処理の一端を担い、農業や飲食業をも営むため、西原商店の指南により、様々な法的課題の整理と解決に取組んでおり、昨年１２月には一般廃棄物処理業の資格を取得。今年は、日量 200kg の堆肥製造機の購入資金として、福岡県の障害者自立支援基盤整備事業補助金の交付が決定、設備を整えることができることになった。

今後は協働で運営の仕組みづくりを進める。

生ごみの堆肥化装置

１０ 発達障がい者の企業へのインターンシップ事業の検証評価

団体名	特定非営利活動法人 発達障がい者就労支援ゆあしっぷ（春日市）
企業名	株式会社サニクリーン九州（清掃用具レンタル/福岡市）

【概　要】
特定非営利活動法人 発達障がい者就労支援ゆあしっぷが、株式会社サニクリーン九州と協働し、発達障害者のインターンシップ派遣を検討している。ゆあしっぷは、障害者手帳を持たない発達障害者の就職問題を解決するため、個々の企業に応じて、障害者の個性を活かした就労モデルを提案する事業を展開しており、企業への発達障害者のインターンシップ派遣のプロジェクトを企画。
プロジェクトに賛同した株式会社サニクリーン九州が、インターンシップ事業の仕組み検証に協力。同社では自社工場で障害者７人が、汚れたマットやモップ類の入荷検品、受入れ、ピッキング（商品をそろえて箱に詰めること）や積み込みを行っているが、作業自体がシステム化され、障害者でもほとんどミスなく作業ができる環境を整えている。
　今年１月、久留米市にある同社の関連工場をゆあしっぷが視察し、インターンを受け入れる管理側や障害者の就労の実情を把握し、インターン派遣事業への助言を得た。ゆあしっぷがサニクリーンからトレースしたことを活かし、団体ホームページに会社見学の内容を掲載している。http://ゆあしっぷ.net/kengaku.html
また、取扱説明書の作成も行っている。
今後は、両者でインターンシップ派遣事業の仕組みの評価検証を継続していく。